

| | | |
|----------------------|---------|-----------|
| I 学校生活アンケート【生徒用】について | 対象 141名 | 回収率 95.7% |
|----------------------|---------|-----------|

全体として、学校生活の充実度や授業の分かりやすさ、他者との関わりなど、多くの項目で前年度を維持又は向上している傾向が見られます。

(1) 学校生活の充実度と授業の理解度

学校生活の充実度及び授業の分かりやすさについては、全体的に高い水準を維持しつつ、肯定的な回答（「はい」）が増加しています。

- **学校生活の充実度**: 令和6年度の74.6%から令和7年度は77.8%に上昇しました。特に3学年の肯定率が68.4%から82.4%へと大幅に向上しています。
- **授業の分かりやすさ**: 全体で84.4%から88.1%へと向上しました。1学年では92.0%が「分かりやすい」と回答しており、非常に高い評価となっています。

(2) 基本的な生活習慣と自己管理

体力面や責任感といった項目でも、安定した数値が出ています。

- **体力向上・生活リズム**: 全体で約81.5%～86.9%の生徒が肯定的に捉えています。
- **自分の役割への責任感**: 令和6年度の78.7%から、令和7年度は81.5%へと微増しました。
- **一人でできることの増加**: 令和7年度は全体で80.0%の生徒が成長を実感しています。

(3) 社会性と人間関係

挨拶や思いやりのある行動といった対人関係のスキルについても比較を行いました。

- **感じの良い挨拶**: 77.0%から79.3%へと向上しました。特に3学年では94.1%が「はい」と回答しており、学年が上がるにつれて定着している様子が伺えます。
- **思いやりのある行動**: 74.6%から77.0%へと向上しています。
- **相談相手（友達・先生）**:
 - 気持ちを分かってくれる友達がいると答えた生徒は、66.4%から76.3%へと大きく増加しました。
 - 先生については、71.3%から78.5%へと向上しており、学校内の信頼関係が深まっている傾向にあります。

(4) 課題

- **チャレンジ精神**: 難しいことや苦手なことへの挑戦については、70.5%(R6)から71.1%(R7)と横ばいですが、依然として「わからない」と回答する生徒も2割程度存在し、継続的な支援が求められる部分です。

(5) まとめ

令和7年度の結果は、多くの項目で令和6年度を上回っており、特に「学校生活の充実感」や「周囲への信頼感（友達・先生）」の向上が顕著です。これは、生徒がより安心して学校生活を送り、人間関係を構築できていることを示唆しており、今後も継続すべき点を考えます。今後は、それらを基盤としながら生徒が難しいことや苦手なことにも挑戦しようとする意欲を育てる取り組みの充実が必要であると考えます。

全校生徒数は134名から141名へと増加していますが、保護者の回答数は96名（回答率71.64%）から66名（回答率46.81%）へと大幅に減少しました。特に1学年の回答率は、前年度の88.68%から42.31%へと半減しました。Googleフォームだけでなく、紙媒体での回答アンケートの実施など、実施環境の改善に取り組む必要があると考えます。

(1) 子供の成長と学校生活に関する評価

子供たちの意識面では、「前向きな登校」の項目が3.67点から3.73点へと向上しており、学校生活への適応はおおむね良好です。一方で、生活態度や対人関係に関する評価には低下が見られます。「身の回りの自立」（3.45点から3.30点）、「体力や集中力の向上」（3.35点から3.25点）、「挨拶」（3.29点から3.22点）、「相手意識や思いやり」（3.22点から3.06点）といった項目でスコアが下がっており、特に「思いやり」の項目は全体の平均点の中でも低い数値となっています。

(2) 教育環境と信頼関係の構築

学校側の対応については、多くの項目で評価が維持又は向上しています。

- **教職員との信頼:** 教職員が生徒理解に努めている（3.60点から3.63点）、服装・言葉遣いが適切である（3.65点から3.61点）といった項目は引き続き高い水準にあります。
- **安全と衛生:** 特に「感染症・熱中症への対応」は3.38点から3.68点へと大幅に改善されました。
- **情報発信:** 学校だよりやホームページを通じた積極的な情報公開（3.52点から3.59点）も前年度を上回る評価を得ています。

(3) 寄宿舎における指導と連携

寄宿舎生の保護者による回答でも、回答率は70.67%から46.15%へと低下しています。評価内容を見ると、職員との信頼関係（3.55点から3.57点）や適切な指導計画（3.49点から3.57点）は安定して評価されています。特筆すべきは「情報の迅速な伝達と連携」で、3.56点から3.75点へと大きく向上しており、家庭と寄宿舎のコミュニケーションが強化されている様子が伺えます。

(4) まとめ

全体として、学校及び寄宿舎の教職員に対する信頼や、安全管理・情報提供といったシステム面での評価は向上傾向にあります。しかし、子供の社会性や自立心といった行動面の成長については、保護者の評価が慎重になっていることが示されました。自由記述では教職員の姿勢に対し肯定的な意見が多く寄せられており、今後は高まった信頼関係を基盤として、生徒個々の行動変容や社会性の育成にどのようにアプローチしていくかが課題であると考えます。

今後、特に評価が低下した「思いやりのある行動」などの対人面について、具体的な指導の重点化を検討する必要があります。

令和6年度（R6）と令和7年度（R7）の学校評価結果を比較すると、教育活動の質は維持・向上している一方で、組織運営や働き方に関する教職員の負担感が増大しているという対照的な傾向が見て取れます。全体を通して「いじめ防止」や「服務規律」といった安全・倫理面での評価は、両年度とも3.4点を超える高い水準を維持しています。

(1) 顕著な進展が見られる領域

教育の実践面では、特にICT教育と外部連携において明確な改善が見られます。

- **ICT教育の推進:** ICT教育に関する研修や実践の評価は、R6年度の3.28からR7年度には3.45へと大きく上昇しました。これは校内の環境整備と教職員のスキル向上が着実に進んでいることを示唆しています。
- **交流及び共同学習:** 地域や他校との交流についても、R6年度の3.37からR7年度は3.41へと微増しており、活動の定着が見られます。

(2) 課題が浮き彫りとなった領域

一方で、教職員の働く環境や組織の効率化については、前年度より厳しい評価となっています。

- **働き方改革の停滞:** 「働き方改革」の項目は、R6年度の3.27からR7年度は3.09へと0.18ポイント低下しました。また、「会議の効率化や業務の能率化」も3.23から3.15へと低下しており、業務負担の軽減が喫緊の課題となっています。
- **研究・研修の質の変化:** 校内研究が専門性向上や授業改善に結び付いているかという問いに対し、R6年度は3.21の評価でしたが、R7年度は3.09に留まっています。ICTなどの新しい取組が増える中で、従来の研究活動を効果的に実施する時間の確保が難しくなっている可能性が推察されます。

(3) 安定している運営基盤

「学校経営方針の具現化」については、両年度とも3.26と全く同じスコアであり、学校の目指す方向性に対する教職員の意識は一貫して安定しています。また、生徒の健康管理(3.42から3.29へ微減)や、保護者対応(3.43から3.42へ横ばい)についても、依然として良好な評価を維持しています。

(4) まとめ

R7年度は「教育内容の高度化（ICT等）」や外部連携には成功しているものの、その分「業務の過密化（働き方・研究時間の不足）」が現場の課題として強く表れており、今後は一層、保護者や関係機関との機能的な連携を図るとともに、業務の合理化、効率化を推進することが必要であると考えます。